

平成29年5月18日開催教育委員会会議記録

1 開会・閉会等について

日時	平成29年5月18日(木) 午後3時00分
場所	教育委員会室
開会	午後3時00分
閉会	午後3時46分
出席委員	
教 育 長	加 藤 裕 之
委 員	雁 部 隆 治
委 員	阿 部 博 道
委 員	坂 根 慶 子
委 員	淺 松 三 平
説明のために出席した職員	
教育委員会事務局次長	後 藤 隆 宏
教育委員会事務局参事 (庶務課長事務取扱)	岸 川 紀 子
学 務 課 長	須 藤 浩 司
指 導 室 長	横 山 圭 介
すみだ教育研究所長	石 原 恵 美
地域教育支援課長	岡 本 香 織
ひきふね図書館長	高 村 弘 晃

2 議題について

(1) 議決事項

第1 議案第53号 墨田区幼保小中一貫教育推進計画の改定方針について

(2) 報告事項

第1 教育課題の進捗状況について

第2 P T A 退任役員に対する感謝状の贈呈について

3 会議の概要について

教育長 それでは、教育委員会を開会します。本日の会議録署名人は浅松委員にお願いします。本日は、議決事項1件、報告事項2件を予定しております。

議決事項第1・・・資料P1～3、別冊

議案第53号「墨田区幼保小中一貫教育推進計画の改定方針について」を上程し、すみだ教育研究所長が資料のとおり説明する。

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

坂根委員 検討会についてですが、学識経験者というのは何名でどのような関係の方ですか。

すみだ教育研究所長 小・中学校の校長経験者を1名と考えています。その方に検討会と作業部会へ参加していただく予定です。

坂根委員 今年度初めの校長会で区長が新しい発想をといた話をされていましたが。新しい発想という点では、同じような小・中学校の校長先生より別の視点の方を選ぶというようなことは考えていらっしゃらないのでしょうか。

次長 幼保小中一貫教育推進計画については、今回は改定ということになりますので、以前からの継続性というものを1つ視野に入れなければいけないと思っています。また、新しい学習指導要領の考え方に基づいていきますので、新しい発想は確かに必要ですが、国の方針等に則った形での計画策定というのも必要です。新しい発想に加えて、そういう既定のことについて、きちんとやっていくという視点が必要になってきます。それから、検討会の構成員として想定している方は、教育委員会事務局で選定していますが、今の墨田区内の幼保小中一貫教育の実態について現場を一定程度知っている方がよいのではないかという考えもありますので、総合的に加味して選定したいと思っています。

坂根委員 検討会ですから、その後またいろいろ議論する場もあるかと思えますけれども、そういうときに新しい発想ということでお考えくださるようお願い申し上げます。

次長 現状維持ばかりではなく、その辺りをくみ取れるよう検討させていただきます。

阿部委員 資料の2(1)に、「すみだ教育指針(墨田区教育振興基本計画)平成29年度～平成33年度」を上位計画とし、と書いてあります。教育指針には5つの目標がありますが、これと全般的に結びつくということなのか、あるいはこの中のどれかを実現するために、主としてこの幼保小中一貫教育推進計画があるのか、その関連と位置付けを説明してください。

すみだ教育研究所長 すみだ教育新指針を策定した中で、当然今年度は、墨田区として学力向上という最重要課題がありますので、今回の改定におきましては、その最重要課題を最上位計画に齟齬のない形で盛り込んでいこうと考えております。

阿部委員 抽象的な方向性が2つ重なってしまっているようなので、どのようにその幼保小中一貫教育を目指していくのか、例えば学力に重きを置くのか、あるいは何か地域との連携に重きを置くのかという点ではどうですか。

次長 資料の6番「主な検討事項」というところに、1つの体系的な手段が書いてあります。前の5年間は、10個の各ブロックの自主的な検討に任せたところもあるのですが、今回は教育委員会でテーマ性とか体系性とかをある程度決めてから、それを各現場で推進してもらう形の方がよいと考えています。1つは今までの校種間の接続を円滑にして、いわゆる生活指導上の問題、小1プロブレムとか中1ギャップの解消、引き続きこの問題に向けた努力と取組をしていくというものです。それから、もう1つは教科です。教科連携を視野に入れた動きが、強くなかったというところもありますので、それを意識して次の計画を立てて、その2つを主にやっていきたいと考えております。先ほどすみだ教育研究所長が申したのは、すみだ教育指針に則った形で具体的な幼保小中一貫教育の取組をしていきます、という発言をしたということでご理解いただければと思います。

浅松委員 資料の中に、新学習指導要領との関連資料も付いており、いろいろ読んでみますと、特にキャリア教育の特別活動を含めた、いわゆる自己進路を決定する場合に、現在はキャリア教育と言っているものをキャリアパスポートという形で、小・中・高といわゆる義務教育が終わり高校から先もつながりを考えるものです。いろいろなところで出てきているように、これからは職業の選択が難しくなってくる、産業構造が変わっていくといった中で、新しい学習指導要領の指針が出ていますので、そういった観点からすれば、各教科でこの連携を含めて、特別活動や領域の部分で、これも押さえておく必要があると思います。今度の推進計画の改定の中で、ぜひともその辺りのことを、一度、論議のポイントにさせていただければというふうに要望します。

坂根委員 教科連携ということは、特にどの教科ということを念頭に置いているのですか。

すみだ教育研究所長 今回、小学校で英語が教科化されますので、特に英語についての教科連携をどうしていくのかということ、中学校が中心となった各ブロックに重点課題として事務局から伝え、教科連携の活動取組の計画の中に入れていくことを考えています。

教育長 「主な検討事項」の教育委員会としてのものは、今まで幼保小中一貫教育の推進をしてきた中で、各ブロックで独自にいろいろ実施してきたと思うのですが、それについては全く除かれるということですか。要するに、これだけに特化することなのか、それとも今までに使ってきたものも取り入れて、なおかつこれを入れていくということなのか、どちらなのですか。

すみだ教育研究所長 後者のほうです。もちろんこれまでやってきた取組について検証し、いいものは継続して残していく、皆で共有をしていく、またさらによいものをもという考え方です。

教育長 前の計画では、要するに各ブロックの自主性に任せていたわけですが、この2つの検討事項をすみだ教育研究所で、これについてはこういうことでやっていきますということで、幼保小中一貫教育の各ブロックに伝え、独自のものを発展させるということですか。

すみだ教育研究所長 そのとおりです。

浅松委員 毎年モデル校2校、2ブロックがモデルになって、かなり先進的にほかのブロックが参考になるような取組をされていると聞いています。今回、平成29年度は平成30年度の見直しに向けて、例年とは違うモデル校に対する要望といいますが、要請というのはありますか。

すみだ教育研究所長 今年度も重点校を2校選定しております。そのブロックに関しては教科連携、主に英語ということで重点的にやっていただき、こちらはその2校に力を注いでモデルになるような形に持っていく計画をしております。

浅松委員 2校とも同じ英語を重点的にやるということですか。

すみだ教育研究所長 ほかにやることはあると思いますが、英語だけは必ずということをお願いしたいと思います。

雁部委員 重点校というのは、より強化するというイメージですか。

次長 過去の取組で教科連携としては、例えば数学、算数をやったこともあり、そこはそれでやはり重要なことだと思うのですが、平成32年度から小学校で英語の教科化があり、低学年も英語に取り組むような英語活動が入ってきますから、それをにらみ、英語について特に留意してやってもらうという方向に持っていきたいと思っています。

坂根委員 前年度までと違って、ブロックの自主性に任せるのではなく教育委員会が主導という形になるということですね。前年度までのいい点は引き継いでというお話でしたが、この検討会の前、あるいはこの検討会の最初に、前年度までの検証はされるのでしょうか。

すみだ教育研究所長 検証という点では、これまで報告書という形で各ブロックの行った事業につ

いて報告いただいています。それについて今回検証をいたしまして、新たな事業計画を作成するという形を考えております。

坂根委員 それは、幼保小中一貫フォーラムでいただいた資料とは別のものですか。

すみだ教育研究所長 同じものです。

浅松委員 小中一貫教育のこれまでの連携型という墨田の形、これは変わらないと思うのですが、いろいろな課題を抱えたときに、その課題が持ち越され何年かやってきた中で、その重点校に対しては、その課題を解決するための検証というものがやはり必要ではないかと思います。それは意図的に教育委員会が背中を押してやらないと、フォーラムのような形を踏襲するとなると、来年に向けて不安があります。またさらに言うと、区民や地域の方々が、小中連携の墨田の連携型って何だろうかと、いうところは、オープンに会場に来てくださいと言いつつも、実際にはなかなか伝わっていきません。さらに言うと、中学校の入学説明会、小学校の入学説明会で保育園、幼稚園、あるいは小学校との連携の辺りの話を各学校がしていればまた違うと思うのですが、内部の教員の情報の共有化とかよく言われる中で、外に対してもっともっと発信していかないとよりよいものにならないと思います。ですから、そういった発信の仕方も1つ大きな課題だと思えます。そのことは、フォーラムの際に、講師の庭野先生もおっしゃっていました。

教育長 では、今のご意見を参考にしながら、内容の基本的な方向としてはこの形で進めていくということで、議案第53号は原案どおり定めることにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

教育長 それでは、原案どおり定めることにします。

報告事項第1・・・資料P4

「教育課題の進捗状況について」、所管課長が資料のとおり説明する。

庶務課長 (学校校舎等の改築・改修事業について説明)

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

(質疑・意見なし)

指導室長 (新学習指導要領への対応について説明)

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

(質疑・意見なし)

すみだ教育研究所長 (学力向上新3か年計画の実施、幼保小中一貫教育推進計画の改定について説明)

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

雁部委員 全小・中学校長から学力向上ヒアリングを行ったと思いますけれど、具体的に学力向上のためのアイデアなどはありましたか。

すみだ教育研究所長 具体的な方法として、幾つかとてもよいものを聞き取ることができました。また、こちらが発信している「教育委員会からのメッセージ」についての浸透率を伺ったところ、ほぼ全校の校長先生から各教員に浸透しているというようなお言葉をいただきましたが、さらに浸透を図っていくというところで話をさせていただいております。

雁部委員 提案の内容というのは、例えば幾つか教えていただけますか。

すみだ教育研究所長 例えばネーミングで、アクティブラーニングを意識している校長先生は、アクティブテスト、アクティブサタデーというような名前を付けて、アクティブテストでは朝テスト

を必ずやるとか、土曜日にはアクティブサタデーという時間を設けて必ず振り返りをさせるとか、その子がどういう状況でつまづいているのかを発見して、そこでその子に合った課題を出す、具体的な時間帯、方法で示すといった提案がありました。また、校長先生のマネジメントの部分で、先生方が忙しい中でやるには、その学校ではやはり朝学習しかないということで、朝の10分、15分の時間を利用して、個々の子どもをつまづきや状況を把握するというような時間に必ず充てるといった提案もありました。その他、朝学習を今までは朝読書の時間に使っていたけれども、時間をもっと有効に使いたいということで、少し朝読書の時間を削ることにはなりますが、そこで振り返りと合わせて、分かる、分からせる、定着させることができる時間帯に必ず持っていくようにすることを学校全体で決めたといった提案もありました。

阿部委員 「マネジメント推進校」について、意味がよく分からないのですが、どのようなものですか。

すみだ教育研究所長 学力向上新3か年計画の中で、今年度の新規事業として5校をマネジメント推進校とさせていただきます。対象は、言問小学校、柳島小学校、隅田小学校、豎川中学校、桜堤中学校で、予算と指導の両方から支援するという新規事業です。

阿部委員 その5校はどのように選ばれたのですか。

すみだ教育研究所長 申請制です。

浅松委員 話は戻りますが、各学校で学力向上とはいってもなかなか課題が大きく、朝学習を利用するというのもそれはそれでよいのですが、例えば中学校の場合、部活動のある放課後の補習に対する取組とか、一応すみだ教育研究所の方では一覧にまとめて、何曜日の放課後に何をやるとか計画させていますね。そのような中で、学力向上がなかなか厳しいものがあるというような声とか、あるいはその辺りの相談というものはありましたか。

すみだ教育研究所長 ご指摘のように、当然よいことばかりではなくて、なかなか学力向上という面では非常に苦慮しているというお話はありました。その中で、やはり校長としてはマネジメントというところで、いかにそれを一人一人の教員に浸透させていくか、「分かる、分からせる、定着させる」というところのやる気、あるいは本当にそれをやっていくのだ、本年度達成するのだということを伝えていき、滞りなく全員がそれを実行するためにはどうしたらよいのかというところが、非常に厳しい面だという声があります。こちらとしても、具体的な実行に移すためにどのように支えることができるのかを一緒に考えていきたいと思っています。

坂根委員 「理科観察実験アシスタント配置校」について、時間や人数等を概算で構わないので教えてください。

すみだ教育研究所長 時間は、1校あたり年間延べ100時間です。

坂根委員 学校の方でこの時間に来てほしいという希望があるのですか。それとも曜日で決まっているのですか。

すみだ教育研究所長 これから調整をした上で決めていくのですが、合計で100時間まで支援するというものです。

坂根委員 基本的には、その学校の希望によるのですか。

すみだ教育研究所長 理科の観察実験のアシスタントですので、実験をより円滑に進めていく方法や、授業力向上のための支援について各学校の希望を聞いて調整していくところです。

坂根委員 その場合に、実際に実験をする時間以外で予備実験をするような時間にアシスタントに来てほしいといった要望もかなえるのでしょうか。

すみだ教育研究所長 今のところは、そのような具体的な相談はありませんが、そういう相談があれば調整して、可能な範囲で応じていくことも考えています。

教育長 具体的にアシスタントの業務内容を説明してもらえますか。

すみだ教育研究所長 主な業務内容は、観察実験のための準備のほかに、実験による授業の質の向上、また教員の指導力向上のための助言を行うことです。

教育長 実験の補助ということで、準備や片づけ、整理といったことが基本ですよね。

すみだ教育研究所長 基本的にはそうです。ただ、単に実験の片づけ等をするという視点に留まらないように調整していきたいと考えています。

教育長 アシスタントになる方は、具体的にはどういった方なのですか。

すみだ教育研究所長 理科の元教員や理系の学生です。

教育長 学生の場合は教員を指導することができませんから、学生がアシスタントになる場合は、理科の実験準備等の補助をしてもらい、理科の元教員といった経験がある方については助言等してもらおうといったような形になりますので、誰を雇うかによって決まってくるということです。

坂根委員 誰がどの学校に行くかというのもまだ調整中で、どういう方にどういう単元に来てもらいたいという学校の要望と必要に応じて配置するわけですか。

教育長 人選は、誰が行うのですか。

すみだ教育研究所長 最終的には校長がします。

教育長 ということは、教育委員会が5人を決めて学校に配置するのではなくて、各学校の校長が自分のところに合うような人を、選んで連れてくるということですね。

すみだ教育研究所長 はい、そうなりますが、すでにSST(スクール・サポート・ティーチャー)として活動している適切な人材を各学校に紹介することも考えています。

報告事項第2・・・資料P5

「PTA退任役員に対する感謝状の贈呈について」、地域教育支援課長が資料のとおり説明する。

教育長 ただいまの説明についてご質疑、ご意見はありますか。

雁部委員 対象に、このほかの学校の本部役員というのはいないのですか。

地域教育支援課長 今回2校から申請が上がっておりますが、学校によって総会の時期がかなりずれておりますので、段階を追ってということになります。ほかの学校についても、5年以上お務めの方がいる場合は贈呈しております。小学校の場合は、小学校だけですと5年に達しない場合がありますので、例えば小学校で2年間役員をされて、その後中学校で3年されれば、中学校の役員を終えられるときに合わせて5年以上を満たしているということで、感謝状を贈呈しています。

その他

雁部委員 先日、桜堤中学校の青少年育成委員会総会に参りました。ここは向島中学校と鐘淵中学校が一緒になったところですので、かなり人数が多く総会も盛大でした。その中で、やはり地域の方が学校教育に対してとても関心を持っておられ、随分と応援してくださっているということに非常に感じました。ただ、ある議員さんからはまだまだ学校がオープンになっていないというご指摘もいただきまして、いろいろなお意見がありましたけれども、全体的に有意義な総会でした。

教育長 これで、教育委員会を閉会いたします。